

※本コメントは、複数の部門に対して総括して書かれたものであり、特定の部門に対して書かれたものではありません

コンクールの目的の一つとして、若いピアニストのみなさんにとって教育的な側面がなければならないという事務局の考えに強く賛同します。もちろん、若いピアニストのみなさんの演奏を直接聞くことができない状況において、十分に責任をもって自分の印象やアドバイスをお伝えすることは非常に難しく、ほとんど不可能に近いことです。ですから、今回はショパン in ASIA の全ての部門において当てはまるであろう一般的な事柄について私の考えを述べさせて頂きたいと思います。

今回審査をする中で、芸術的な個性が足りていない、あるいはまったく感じられないという印象を受けた演奏がいくつかありました。一方で、全ての音を正確に弾くことや、先生に言われたことを忠実に守ることに注力しすぎて感じる演奏もありました。残念ながら、自由に柔軟性があり、想像力に溢れる演奏はそれほど多くはありませんでした。正確ではあるものの、楽譜に書かれていることが機械的に再現されているだけだったり、律動的でメトロノームのようなテンポの演奏もありました。このような弾き方や音楽の理解の仕方では、若いピアニストの芸術的な個性、そして音楽的な想像力や音楽に対する深い理解力を伸ばすことができません。

日々の練習の仕方を見直してみましょう。メトロノームは重要な指針です（ですが、あくまでも指針にすぎないのです）。しかし、もしコンサートやレコーディングで、語るようなフレーズの代わりに、メトロノームの音が感じられたり聞こえてきたとしたら、それは完全な間違いです！楽譜に書かれている全ての音、休符、アクセントが聞こえてきたとしても、それらが曲を語るうえでどのような役割を担っているのかが理解されていないのです。そのような機械的な演奏は、特にショパンの作品のように深く語り掛けるような解釈が求められる作品にはそぐいません。

若いピアニストと一言で言っても、年代によってそれぞれの抱える問題は根本的に違うということはもちろん理解しています。しかし、技量のレベルが違うということはさておき、年代に関わらず、自然で創造的で自由な表現や、音楽を楽しんでいる姿が聴こえたり見えたりするとよいと思うのです！特に「自然な表現」ということを強調しておきたいと思います。人工的に外から得たものや、時に音楽の内容への理解の程度を示唆するようなわざとらしく大げさな身振り手振りや動きに基づくものであってはなりません。

もう一つよくある問題として、いわゆる「音楽を表現すること」と「情熱的な演奏」の違いをきちんと理解することが挙げられます。残念ながら、表現というものは速いテンポや強弱に密接に関係していると考えているように思われる若いピアニストの解釈にしばしば出会います！私の意見では、これは最も根本的な音楽における間違いや解釈上の誤解の1つです。音楽的な表現はテンポや強弱によって生み出されるものでなく、演奏者の精神、深い想像力、芸術的な個性から生み出されなければなりません。つまり、テンポや強弱の解釈というのは、単に必然的な想像力の結果でしかありません。

最後に、芸術的な想像力や、それを聴衆に伝えられる能力も大切です。ピアノ演奏におけるこれらの課題を理解するというのが、「よいピアニスト」と「想像力に溢れる素晴らしい芸術家」との違いを生み出します。若いピアニストのみなさんが、そのような音楽の理解や解釈上の問題を探し求め、それらに取り組みられるようお祈り申し上げます！

※本コメントは、複数の部門に対して総括して書かれたものであり、特定の部門に対して書かれたものではありません

「バランス」と「ハーモニー」は美しさの最も重要な要素なので、演奏するには常にこれらを探し求めましょう。若い演奏者はしばしば自分のアイデアを示そうと自由に弾くあまり、表現が大げさになったり、音楽の形式が曖昧になったりしてしまいます。一方、形式的には一見正しいニュートラルな演奏であっても、感情の不足により、聴衆を退屈させてしまうものもあります。若い演奏者の皆さん、これらの要素のバランスを探し求めてください。シンプルな音楽こそ美しく、また聴衆を魅了することのできる音楽なのです。

参加者のみなさん、先生方

みなさんの演奏を聴くことができ、大変嬉しく思います。とてもレベルが高く、プロフェッショナルな演奏だったので、採点は容易ではありませんでした。この場でいくつか私の考えをシェアさせてください。ショパンの音楽を正しく理解する上で最も大切なことは、それぞれの曲における全ての重要な要素の中で「よいバランスを見つけること」です。例えば、ルバートとシンプルさ、テンポのバランス、しっかりとした指先を用いながらも繊細に弾くことなどです。常に作曲家が楽譜に記したこと（強弱、テンポ、表現についての全ての指示）を重んじ、誇張した表現は避けましょう。

最も大きな課題の1つは、よい音質で弾くということがあげられます。（時折、表情をつけようと頑張るあまり、鋭すぎたり、硬すぎたりする音になってしまうことがあります。）数日おきに自分の演奏を録音し入念に聴いてみると、とてもよい勉強になるでしょう。これは、弾きながらコントロールすることが難しいすべての重要な要素（テンポや拍、ナレーション[語り口]、音質）を直すための最もよい方法だと思います。自分では気が付かずに弾き急ぎ、聴衆にはもう少しゆっくりのテンポの方が心地よいということもしばしばあります。自分の演奏を客観的に聴くことによって、このようなことも直しやすくなります。

よい練習とは、「曲を弾く上での一番の課題は何か？」「どうやったらそのことをすぐに改善できるか？」「この音、このモチーフ、このフレーズ、この個所、この曲をよりよく弾くためにはどうしたらよいか？」「自分の音、アーティキュレーション、表現の質は最善であるか？」「さらによくするためには、指、肘、腕、肩、上半身をどのようにしたらよいか？」など常に自問することです。

みなさんこれからもがんばってください。そしてスキルと音楽的想像力を更に伸ばしてください。ピアノを上達させるということは、日々人間性を高めることにもつながります。

動画審査の為、場所や機材を工夫された方が多く、コンクールへの意気込みが感じられ嬉しく思いました。生の本番ではいきなり、エチュードを弾くのは大変な緊張を強いられますが、今回は数回取り直しがきくため、完成度の高い演奏が多かったと思います。但し完成度を目指し過ぎて傷を恐れたのか、今一つ表現が薄くなってしまった方も見受けられたのは惜しいです。ライブでの演奏が聴ける日が来ることを待ち望んでいます。

久し振りに大学生を聴かせて頂いたが、レベルが上っていて才能の有る方も数人いて先が楽しみになりながら聴かせて頂いた。惜しいと思ったのはバランスの面で、右手は良く音楽にされているのに左手の意識が足りず、残念な方が何人かいらした。

皆さん動画審査という厳しい状況の中、それぞれの音楽を表現して下さいました。ショパンのスタイルを守った中で、どのように自己表現をしていくかということが全体を通して課題といえるでしょう。エチュードでは正確さを求めるあまりショパンの芸術性、自己の創造性が足りなくなってしまうよう心がけてほしいです。ハーモニーの中での動きを感じて奏することをまずは大切にして、効果的なペダルの使い方も研究して下さい。音楽は音色で語っていくものですから、音の陰影と光を感じて演奏へと繋げてください。楽譜をなぞって音を出すのではなく、意味を持つ表現を音色で紡いでいくことを目標とし、音の響きをイメージしながら弾くことを忘れないでください。

様々な困難を乗り越えてハイレベルな演奏をされた参加者に敬意を表します。残念な点は二つ。まず曲に比べエチュードの完成度が劣る方が多かったです。高校まではエチュードと真剣に向き合っても大学生になると明らかに練度不足や音楽的な詰めの甘さが感じられます。結果アンバランスが目立ち

ました。二つ目は動画の完成度の低さです。映像はさておき音質こそが命です。膨大な時間をかけて曲を仕上げてきた100分の1の時間でも音質向上の研究に割いて下さい。これからの時代にはそうしたスキルは不可欠です。